

交易で栄えた群岡地区

どこでも、古来より地域ごとの豊かな生活がありました。そこに生活する人々の「思い」「願い」「体験」が、数々の伝説、逸話、昔話を生み、現在まで継承されています。群岡地区の物語では、地域に残る歴史的な遺物を紹介するだけでなく、そこで生き生きと暮らし、懸命に生活してきた人々の「心・思い」を大切にしながら、「地域の宝」と言えるものを、現代

に生きる私たちが再認識し、尊重していきたいと考えています。今回は、群岡地区の第1回目として、地区の特色を明確にし、その中から生み出された数々の「伝承」を紹介していきます。

その昔群岡地区は、単なる山村地区ではなく、物流の一大拠点といえる場所でした。雄大に流れる阿賀川沿いに位置し、当時の幹線であった越後街道が通り、多くの人々が行き交った土地でした。古くから、街道の駄賃稼だちんかせぎ——荷駄（馬などによる搬送）、人力による人や物品の搬送業務——、阿賀川の舟運に係る筏搬送や船による会津藩の廻米かいまい、諸荷物の輸送（川下り）、日本各地の産物、特に有名なものとして身欠きニシン、棒タラなどの荷揚げ（川上り）に携わった人々が多くいました。また、旅籠や茶屋を営んでいた人々もありました。現在の上野尻、下野尻、川谷、白坂、宝川などが越後街道に関わり、上野尻、下野尻、端村、徳沢などが阿賀川の搬送業務に携わっていました。屋敷地区は純山村として林業などでにぎわいを見せていました。

こうして、群岡地区には、たくさんの人々の交流を通して生まれた多くの昔話や伝承、遺物が残り、多種多様な文化を現在にまで継承しています。 参考文献 西会津町史



▲須刈り岳山頂から見た現在の上野尻・下野尻



▼かつて車峠にあった茶屋付近



編集後記

夏です。今年もビールのおいしい季節がやってきました。さて、今月号では地域おこし協力隊を取り上げました。いかがでしたでしょうか。隊員一人一人が熱い思いを持って活動していますので、応援よろしく願います。

ところで、今月下旬には恒例の「いいでの集い」が開催されます。昨年は天候に恵まれ写真も個人的には大成功だったのですが、今年はどうなるのでしょうか。今年も飯豊の女神がほほ笑んでくれることを期待しています。

ちなみに、昨年「体重が6割増えてしまい、山登りが不安だ」とここで触れましたが、実は今年、さらに増えています。過去最高に限りなく近い、初めて飯豊に挑戦したときよりも約10割重い体重です。同じおもりを持つならば、脂肪ではなく山頂で飲むビール：いやいや、撮影機材を持ちたいものです。当日までに少しでも減量できるよう、摂生したいと思います。

本日はビールを持ちたい 長谷川祐一